

資料 2

2月4日産業振興審議会での委員からの意見まとめ

令和7年3月17日
水産業振興課企画推進班

■木島委員（水産林業部会）

- 海況変化がここまで大きなものになるとは予想していなかった。
- 見直しの視点をどう施策に落とし込んでいくのかが難しいところ。
- 今後の10年・20年を見据えて計画を作成してほしい。

■高橋（昌）委員（商工業部会）

- 「変化する海洋環境への適応」や「増大するリスクへの対応」を見直しの視点としている一方、基本構成を変えないとしていることに違和感を感じる。
- 目標指標や目標値などは、実態に合わせて変えて良いのではないかと思う、

■関委員（商工業部会）

- 計画のロードマップでは、施策6・施策7関連の事業者間連携の取組が令和7年度で終了となっている。今後も、県内の連携にとどまらず、東北6県で連携し、輸出や原材料調達をしていく必要がある。

■水野委員（水産林業部会）

- 魚価が高騰しており、豊洲は景気が良くなってきてている。昔は、築地に宮城県の商品を積んだトラックがたくさん入っていたが、最近は減ってきてていると感じる。東京は、アクセスもいいため、国内市場に向けてPRしていくことも大事。
- 水産加工業では、コストが上がれば、値上げを検討しなければいけない。また、値上げをしても売れる品質でなければいけない。
- 宮城県として推していくターゲットを明確にした方が良い。

■塩坂委員（水産林業部会）

- 10年前から産業復興支援員がきっかけで石巻さかな女子部として魚食普及をしてきた。コロナの影響で、現在は休部中。
- 外向けの販売戦略だけではなく、地元での販売戦略も、ターゲットを分けるなどして、検討していくべき。観光とも関連してくるため、横のつながりでも連携して欲しい。

■齋藤（裕）委員（農業部会）

- 宮城生協では、森への植樹や海辺の清掃活動に力を入れていく方針。海を守っていく活動を県と一緒に進めていけると良い。

■齋藤（由）委員（農業部会）

- 世の中で、不漁と言われている中で、漁業産出額や水産加工品出荷額が目標を達成しているのが気になる。その要因をわかりやすく教えてほしい。

■村上委員（水産林業部会）

- 海況変化等の影響は、生活している中で、なんとなく感じるが、具体にどうなっているのか教えてほしい。
- 漁師力レッジを受講した方達は、その後どうなったのか教えてほしい。